



◆華山が描いた田原の生きもの

田原藩の家老で、文人でもあった渡辺華山の作品には写生に基づきながら描いたものもあります。

また多くのスケッチ帳があったことが分かっており、それらを重ねると天井に届くほどであったようです。

華山は晩年、蛭社の獄(※1)により、田原での蟄居(※2)を言い渡され、池ノ原の屋敷に住んでいました。身の回りの様々な生きものをスケッチしています。

蟄居中の華山の暮らしについては「歴史探訪クラブ163」に多少載っていますが、それに付け加えると、弟子の椿椿山への手紙には、あちこちに出掛けて領民と交流するなどして、一日中談笑して仲良く過ごすように努めているとあります。そのためなのか、友人が持ってきた名前もわからない魚を



▲トノサマガエルなど(翎毛虫魚冊)

描いた重要美術品「異魚図」(個人蔵)や自分の身近にいた虫やカエル、キノコなどや領民などから見せてもらった魚貝類などをスケッチした「翎毛虫魚冊」(草雲美術館蔵)があります。これらのスケッチ帳をもとに生命感あふれた魚や虫たちが描かれた重要文化財「遊魚図」(静嘉堂文庫美術館蔵)や重要文化財「虫魚帖」(岡田美術館蔵)といった華山の傑作の一つとなる作品が生まれました。



▲ミルガイ(翎毛虫魚冊)

【※1】江戸後期の、蘭学者に対する弾圧事件

【※2】刑罰の一つで、自宅の一室に謹慎させること

(学芸員 鈴木まりな)

◎ミルガイの豆知識

この地域の方言で、ミルガイは「トリガイ」と言われていたようです。

また、このミルガイは畠村(現在の福江町)の入江で捕れたものだと言われています。